

新約聖書の中の祈り 第1回

□ 「祈り」に関する学び全体のテーマ

1. 祈りの原則
2. 祈りの3つのタイプ
3. 旧約聖書の中の祈り
4. 新約聖書の中の祈り
5. 祈りの条件
6. 祈りの構成と内容
7. 祈りのルール
8. 祈りの諸問題

□ 「新約聖書の中の祈り」のアウトライン

1. イエスの祈り
2. 福音書における他の祈り
3. 使徒の働きにおける祈り
4. 書簡における祈り

□ 「イエスの祈り」のアウトライン

福音書の中から、イエスの祈りについて22の事例を取り上げ、それぞれに祈りの場所や時間、そのときの姿勢、祈りの内容、そして祈りがどのように答えられ、どのような出来事につながっていったか、などを見ていきます。

1. 洗礼を受けたときの祈り
2. 第一のメシア的奇跡をはさんでの祈り
3. 十二使徒を選んだときの祈り
4. 五千人の給食を前にしての祈り
5. 五千人の給食の後の祈り
6. 四千人の給食のときの祈り
7. ペテロの信仰告白を前にしての祈り
8. イエスの変貌のときの祈り
9. 70人の弟子が帰ってきたときの祈り
10. 「主の祈り」に先立つ祈り
11. 子どもたちを祝福したときの祈り
12. ラザロのよみがえりのときの祈り

13. ギリシヤ人がイエスに面会を求めたときの祈り
14. 最後の過越の食事での祈り
15. 最後の過越の食事の間でのペテロのための祈り
16. 将来、聖霊が信者の内に住んでくださることについての祈り
17. 大祭司としての祈り
18. ゲッセマネにおける祈り
19. 差し控えられた祈りについての言及
20. 十字架からの祈り
21. エマオにおける祈り
22. 昇天を前にしての祈り

以上の 22 の事例の祈りを全体的に眺めると、イエスの祈りについて 24 のポイントを挙げる事ができます。これが「イエスの祈り」についての学びの結論部分になります。24 のポイントは、次のとおりです。

1. イエスは、しばしば、一人になって祈るようにしていた。
2. イエスが祈りをした時間帯は、さまざまである。朝であったり、夕であったりである。
3. イエスが祈りをしたときの姿勢も、さまざまである。立って、ひざまずいて、あるいは顔を地面につけて、天を見上げて、というように。
4. イエスの祈りは、しばしば、重要なターニングポイントとなる出来事の前に祈られている。
5. イエスは、大いなるみわざをするときにも祈った。
6. イエスは、プレッシャーを受けたときにも祈った。
7. イエスは、悲しみのときにも祈った。
8. イエスは、死の直前にも祈った。
9. イエスは、とりなしの祈りをした。ペテロのため、イエスを十字架に釘付けにした兵士たちのため。
10. イエスの祈りの時間は、長短さまざまであった。夜通しや、1時間など。
11. イエスは、父なる神に対して祈った。
12. 祈りのタイプはさまざまである。請願、祝福、感謝、とりなし。
13. イエスは、聖霊に満たされ、喜びにあふれて祈ったことがあった。
14. イエスは、「祈りの本」によらずに、その時その場、自分のことばで祈った。
15. イエスは自分の感情が大きく動く中で祈ったことがあった。
16. イエスは、個人的にも公けにも祈った。
17. イエスは、ほとんどの場合、信者のために祈った。不信者のための祈りは稀である。

18. イエスが祈る動機の中には、神の栄光を含んでいた。そして、人々の霊的に益となることを含んでいた。
19. イエスの祈りは、漠然としてはいなかった。誰のために何を祈り求めるのか、はっきりとしていた。
20. イエスは、祈りの中で何かを願い求めるときには、その理由を明確にした。
21. イエスの祈りは、誰かと対話しているような調子であった。
22. イエスは自分の祈りがすべて聞かれているという確信をもっていた。その一方で、祈りの中で求めたことが、すべてそのとおりに答えられたというわけではない（マタイ 26 : 36~46）
23. イエスは、祈りの中で何かを願い求めるときには、父なる神のみこころにかなうのであれば、という条件付きで求めた。
24. イエスは、祈りの中で何かを願い求めるときに、その願いを繰り返し言うことがあった。

□本日の事例 1番から5番まで

1. 洗礼を受けたときの祈り

(1) ルカ 3 : 21~22

(2) 21節 「イエスもバプテスマをお受けになり、そして祈っておられると」

(3) この祈りに答えて、3つのことが起きた。

① 天が開けた

② 聖霊が、鳩のような形をして、イエスの上に下られた

③ 天から声がした。「あなたは、わたしの愛する子、わたしはあなたを喜ぶ」

(4) この祈りをもってイエスが父に願い求めたことは・・・父なる神がイエスをメシアであることを公けに認証・宣言してくださるよう

(5) これがなぜ、イエスの受洗のときに起きたのか・・・イエスの受洗の6つの目的のうちのひとつ・・・ひとりのユダヤ人として、イスラエル民族との一体化。同時に、メシアはユダヤ人の王として来られる（マタ 2 : 2）。当時のユダヤ人たちが理解される形での認証とは

① 聖霊が見える形で現れるときは、鳩の形

② マラキより後、預言者が出ない。神がそのみこころを示すときは、天から短く神の音が響く

2. 第一のメシア的奇跡をはさんでの祈り

(1) マルコ 1 : 35

(2) この記事は、第1次宣教旅行のとき

(3) 「イエスは、朝早くまだ暗いうちに起きて、寂しい所へ出て行き、そこで祈っておられた。」 → 祈りの場所=寂しい所

(4) この祈りに見る特徴

- ① イエスの祈りにおいては、祈る場所と時間帯については前もってよく考えて設定されていた。単にどこでもいいとか、いつでもいい、というわけではない。
- ② イエスは、個人的な祈りの時を持つにあたり、自分一人になることを必要とした。
- ③ イエスにとって、祈りは、前もってよく考えられた、そして意志力を働かせる行為であった。それは、意志に基づく行為であった。イエスは祈ることを選択したのである。
- ④ このときの祈りは、イエスが3つのメシア的奇跡のうち、その最初の奇跡である「ユダヤ人のツァラアト患者の癒し」(マルコ 1 : 40~45、ルカ 5 : 12~14) を行う前の、祈りであった。

(5) ルカ 5 : 16

(6) 「ユダヤ人のツァラアト患者の癒し」をした後の祈り。「イエスご自身は、よく荒野に退いて祈っておられた」

(7) この祈りに見る特徴

- ① 「退いて」・・・ギリシヤ語の動詞の時制からは、習慣的な行為であることが読み取れる。イエスは、習慣的に退いて、祈ることができるようにしておられた。
- ② 「よく」・・・イエスは、周期的に群衆から身を引いて、祈ることができるようにしておられた。
- ③ 祈りは、イエスにとってごく自然なことであった。イエスは、本能にしたがうかのように、静かな落ち着いた環境を求めて、祈った。
- ④ このときの祈りは、イエスが3つのメシア的奇跡のうち、その最初の奇跡である「ユダヤ人のツァラアト患者の癒し」を行った後の祈りであった。イエスは何を祈ったのか・・・メシア的奇跡を行ったことで次に起きるべきこと、それはイエスが真正のメシアであるかどうかを調べるためにユダヤ人指導者層が送り出す調査団の来訪(ルカ 5 : 17~26) に備える祈りであった。

3. 十二使徒を選んだときの祈り

- (1) ルカ 6 : 12~17
- (2) 12 節「イエスは祈るために山に行き、神に祈りながら夜を明かされた」。この祈りを経て、13 節「夜明けになって、弟子たちを呼び寄せ、その中から十二人を選び、彼らに使徒という名をつけられた」。よって、山での祈りは、十二使徒を選ぶための祈りであった。
- (3) この祈りに見る特徴
 - ① 場所・・・山の中
 - ② 時間的長さ・・・「夜を明かす」は、ラビ用語では「忍耐をもって待つ」という意味。ここでの強調点は、イエスの祈りは、粘り強いものであったということ
 - ③ 時間帯・・・夜
 - ④ 内容・・・弟子たちの中から、12 人を使徒として選ぶこと。そして、このあとの「山上の垂訓」(ルカ 6 : 20~7 : 1) のためにも祈ったと思われる。

4. 五千人の給食を前にしての祈り

- (1) 4つの福音書のすべてが共通して記載する唯一の奇跡
 - ① マタイ 14 : 13~21
 - ② マルコ 6 : 30~44
 - ③ ルカ 9 : 10~17
 - ④ ヨハネ 6 : 1~13
- (2) この奇跡の目的は、12 人の使徒たちの訓練
 - ① 使徒たちに任せられることになる宣教活動とは、どういう性質のものかを教える→ここでは給食。宣教においては、霊の糧を与える。使徒たちが与えなければならない。しかし、使徒たちには与えるのに十分な霊的資源はない。自分たちの力では何もできない。
 - ② その宣教活動において使徒たちに必要なものを供給する能力がイエスにはある、ということを示す→イエスが使徒たちに与える、そして使徒たちが信者たちに配る。それも十分に与えることができる。
- (3) この祈りに見る特徴
 - ① ここでの祈りは、食べ物を与えてくださいと願い求める祈りではなかった。
 - ② 食べ物を祝福するための祈りであった。そして、神から供給されることについての感謝をささげる祈りであった。
 - ③ 祈るときの姿勢・・・イエスは、天を見上げて祈った。

5. 五千人の給食の後の祈り

(1) ルカ以外の3つの福音書が記す

- ① マタイ 14 : 22~23
- ② マルコ 6 : 45~46
- ③ ヨハネ 6 : 14~15

(2) この祈りに見る特徴

- ① 祈るために、前もってよく考えた努力をしている。イエスは、ご自身を他者から引き離す努力をし、山へ向かった。
- ② この祈りは、何かを願い求めるための祈りであった。その内容は、⑥にて推定される。
- ③ 祈りの場所は、山の中
- ④ 祈りの時間帯は、夕方になる前の日中
- ⑤ イエスは、ひとりになって祈ろうとしていた。
- ⑥ 祈りの内容：おそらく、イエスの最後の1年に関することであろう。
 - この時、「ユダヤ人の祭りであり過越が間近になっていた」(ヨハネ 6:4)。イエスが十字架にかかる過越の祭りは、翌年の祭りである。
 - この時から、イエスにとって、イスラエルの民の間で宣教活動をする最後の1年が始まった。